

K-13.6 (900.00~930.00m)



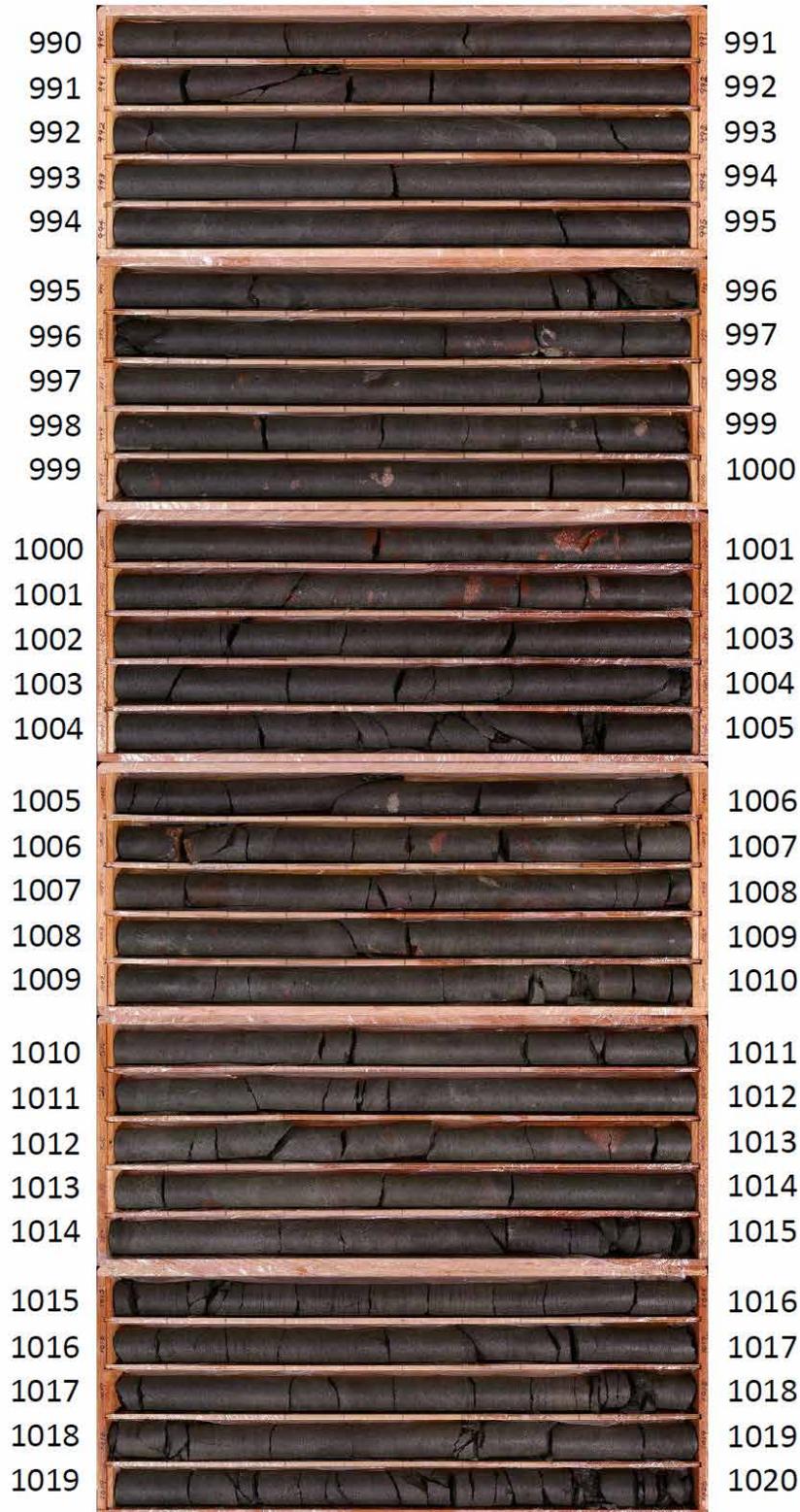
K-13.6 (930.00~960.00m)



K-13.6 (960.00~990.00m)



K-13.6 (990.00~1020.00m)



K-13.6 (1020.00~1050.00m)



K-13.6(1050.00~1080.00m)

1050		1051
1051		1052
1052		1053
1053		1054
1054		1055
1055		1056
1056		1057
1057		1058
1058		1059
1059		1060
1060		1061
1061		1062
1062		1063
1063		1064
1064		1065
1065		1066
1066		1067
1067		1068
1068		1069
1069		1070
1070		1071
1071		1072
1072		1073
1073		1074
1074		1075
1075		1076
1076		1077
1077		1078
1078		1079
1079		1080

K-13.6(1080.00~1110.00m)



K-13.6(1110.00~1140.00m)

1110		1111
1111		1112
1112		1113
1113		1114
1114		1115
1115		1116
1116		1117
1117		1118
1118		1119
1119		1120
1120		1121
1121		1122
1122		1123
1123		1124
1124		1125
1125		1126
1126		1127
1127		1128
1128		1129
1129		1130
1130		1131
1131		1132
1132		1133
1133		1134
1134		1135
1135		1136
1136		1137
1137		1138
1138		1139
1139		1140

K-13.6(1140.00~1170.00m)

1140		1141
1141		1142
1142		1143
1143		1144
1144		1145
1145		1146
1146		1147
1147		1148
1148		1149
1149		1150
1150		1151
1151		1152
1152		1153
1153		1154
1154		1155
1155		1156
1156		1157
1157		1158
1158		1159
1159		1160
1160		1161
1161		1162
1162		1163
1163		1164
1164		1165
1165		1166
1166		1167
1167		1168
1168		1169
1169		1170

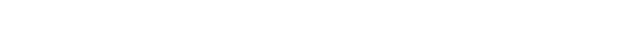
K-13.6(1170.00~1200.00m)

1170		1171
1171		1172
1172		1173
1173		1174
1174		1175
1175		1176
1176		1177
1177		1178
1178		1179
1179		1180
1180		1181
1181		1182
1182		1183
1183		1184
1184		1185
1185		1186
1186		1187
1187		1188
1188		1189
1189		1190
1190		1191
1191		1192
1192		1193
1193		1194
1194		1195
1195		1196
1196		1197
1197		1198
1198		1199
1199		1200

K-13.6 (1200.00~1230.00m)

1200		1201
1201		1202
1202		1203
1203		1204
1204		1205
1205		1206
1206		1207
1207		1208
1208		1209
1209		1210
1210		1211
1211		1212
1212		1213
1213		1214
1214		1215
1215		1216
1216		1217
1217		1218
1218		1219
1219		1220
1220		1221
1221		1222
1222		1223
1223		1224
1224		1225
1225		1226
1226		1227
1227		1228
1228		1229
1229		1230

K-13.6(1230.00~1253.00m)

1230		1231
1231		1232
1232		1233
1233		1234
1234		1235
1235		1236
1236		1237
1237		1238
1238		1239
1239		1240
1240		1241
1241		1242
1242		1243
1243		1244
1244		1245
1245		1246
1246		1247
1247		1248
1248		1249
1249		1250
1250		1251
1251		1252
1252		1253

K-13.6 (63の5)		G L = 35.22m		L = 1253.0m												標							
標 尺 (m)	月 日	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	岩 級 区 分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状	記 事	標 尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II				I	5
81				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba															82.75mに85°の割れ目があり、面は暗褐色化して光沢があり、幅1mmの褐灰色砂質シルトを挟む。	81
82				V																			82
83				V																			83
84				V																			84
85				V																		84.90mに50°の割れ目があり、面は褐色化して光沢があり、条線が認められ、幅1mmの明褐灰色軟質鉱物を挟む。	85
86				V																			86
87				V																			87
88				V																		87.45mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化して幅1mmの灰白色軟質鉱物を挟む。 87.45~87.75mは自砕砂状の固着割れ目が網目状に発達する。	88
89		-53.43	88.65	V																		88.65~94.00m: 安山岩(角礫質)。 赤色化した角礫の弱い中粒輝石安山岩。	89
90				V		赤褐																	90
91				V	安山岩 (角礫質)		Bb																91
92				V		暗赤褐																91.85mに80°の割れ目があり、面は褐色化して褐色砂質シルトが少量付着する。	92
93				V																			93
94		-58.78	94.00	V																		94.00~105.60m: 安山岩(均質)。 中粒輝石安山岩。 94.30mに70°の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94.90~101.35mは20°以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。	94
95				V																			95
96				V																			96
97				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																97
98				V																			98
99				V																			99
100				V																			100

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の9) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1		
161		-125.63	160.85	▽▽▽ △△△	安山岩 (角礫質)	暗紫灰 ～ 黄褐																			160.85～206.75m: 凝灰角礫岩。 160.85～177.60mは細粒砂～中粒砂サイズの基質中にφ1～3cm、最大約20cmの様々な色調の角礫を多量に含む(繰分50～70%)。 礫種は淡黄色のデイサイトが卓越し、暗青灰色～暗赤褐色の輝石安山岩が混じる。 所々に幅15～20cmの細粒凝灰岩を挟む。 161.00mに50°の褐色割れ目があり、幅4～5mmの暗赤褐色シルトを挟み、不明瞭ながらほぼ水平な条線が認められる。 下盤側に幅2～3cmの赤褐色細粒凝灰岩を挟む。 162.15mに70°の割れ目があり、面は褐色化して不明瞭ながら10～30°の条線が認められ、幅1mmの黄褐色細粒砂を挟む。	161
162				△△△		淡黄																			162	
163				△△△																					163	
164				△△△																					164	
165				△△△																					165	
166				△△△																					165.55mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化して不明瞭ながら高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	166
167				△△△																					167	
168				△△△																					168	
169				△△△																					169.00～169.50mに85°のわん曲した割れ目があり、面はほぼ新鮮だが約45°の条線が認められる。	169
170				△△△	凝灰角 礫岩		Bb																		170	
171				△△△																					171	
172				△△△																					172.15mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	172
173				△△△																					173	
174				△△△																					174	
175				△△△																					175	
176				△△△																					176.30mに60°の割れ目があり、面は部分的に黒褐色化して高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	176
177				△△△																					177	
178		-142.38	177.60	△△△																					177.60～180.50mはφ5～20cmの暗青灰色～暗赤褐色中粒輝石安山岩角礫が密集する。基質はシルト～細粒砂サイズ。	178
179				△△△																					179	
180				△△△																					180	

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフにつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の10) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	砂片柱状	柱状	長柱状	短柱状			土細岩
181		-145.28	180.50	△△△		暗青灰 暗赤褐																			180.50~187.15mは細粒砂~中粒砂サイズの褐色基質中にφ1~5cm、最大約15cmの様々な色調の角礫を多量に含む(礫分40~60%)。礫種は暗青灰色~暗赤褐色の輝石安山岩が卓越し、淡黄色デイスサイトが少量混じる。	181
182				△△△		暗青灰																				182
183				△△△		暗赤褐																				183
184				△△△		暗赤褐																				184
185				△△△		淡黄																				185
186				△△△		褐																				186
187		-151.93	187.15	△△△		暗青灰																			187.15~206.75mが細粒砂~中粒砂サイズの褐色基質中にφ1~3cmの暗青灰色~暗赤褐色の輝石安山岩角礫を含む(礫分30~50%)。所々にφ25~40cmの角礫を含む。	187
188				△△△		暗青灰	Bb																			188
189				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																			189
190				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																			190
191				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																			191
192				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																		191.40mに65°の割れ目があり、面は平滑で、褐色化して不明瞭な条線が認められる。付着物はほとんどないが、下盤側に幅1~2mmの赤褐色細粒凝灰岩を挟む。	192
193				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			193
194				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			194
195				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			195
196				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			196
197				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			197
198				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			198
199				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			199
200				△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb																			200

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の12) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱	長砂片	柱状	柱状		
221				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗黒	Bb																			
222				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	オリブ褐	Bb																			
223				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	オリブ褐	Bb																			
224		-188.68	223.90	▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
225				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
226		-190.53	225.75	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																			
227				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
228		-192.48	227.70	▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
229				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
230				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
231				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
232				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
233				▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			
234		-198.58	233.80	▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																			
235				▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																			
236				▽▽▽	安山岩 (均質)	青黒	Ba																			
237				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
238				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
239				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			
240		-204.78	240.00	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗赤褐	Bb																			

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつかささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の13) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱	長砂片	柱状	柱状			柱状
241				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			240.00~248.10m: 安山岩 (均質)。 細粒輝石安山岩。 20~40° と60° 以上の割れ目が交差して発達するため、半柱状~岩片状コア主体となる。割れ目面は概ね暗緑色化して光沢があり、しばしば幅1~2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。	241
242				V																							242
243				V																							243
244				V																							244
245				V																							245
246				V																							246
247				V																						246.30~248.10mは幅1~2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む潜在割れ目が網目状に発達する。	247
248		-212.88	248.10	V																						248.10~264.75m: 安山岩 (角礫質)。 248.10~250.60mは自破砕状の細粒輝石安山岩。 248.10~248.35mは50° の平行割れ目に挟まれ脆弱化している。	248
249				V		暗青灰																					249
250				V		暗褐																					250
251		-215.48	250.70	V		赤褐																				250.60~264.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。所々角礫化がやや進み赤褐色~緑灰色の角礫を含む部分を挟む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 250.70~251.60mは赤色化し、角礫化がやや進んでいる。	251
252		-216.38	251.60	V																							252
253				V																							253
254				V		暗青灰																					254
255				V																							255
256				V	安山岩 (角礫質)																						256
257				V																							257
258				V		灰褐	Bb																				258
259				V																							259
260				V																							260

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6(63の18) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1				
341				▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																				全体的には亜金属音を発するが、角礫自体は金属音を発する。45~60°の割れ目が発達する。339.60mに70°の割れ目があり、岩片状となる。面は青緑色軟質鉱物が付着し幅1mmの褐色砂泥じりシルトを挟む。341.20mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離しやすい。	341
342				▽▽▽	暗赤褐																						342.10mに60°の割れ目があり、面は暗赤褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離しやすい。	342
343				▽▽▽	暗赤褐																						342.55mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢と不明瞭な条線がある。付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離しやすい。	343
344				▽▽▽																							344.40mに45°の割れ目があり、面はほぼ新鮮であるが、幅1~2mmの褐色砂泥じりシルトを挟む。	344
345		-309.48	344.70	▽▽▽																							344.70~345.40mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。全般に赤色化し、角礫の境界は不明瞭。全般に亜金属音を発する。	345
346		-310.18	345.40	△△△	凝灰角礫岩	暗赤褐																					下層との境界は漸移的に密着している。345.40~347.10m:凝灰角礫岩。赤色化したシルト~粗粒砂サイズの基質中にφ1~3cm、最大約8cmの角礫を含む。撾分40~60%。礫種は細粒~中粒輝石安山岩で、赤褐色~黄褐色~灰色を呈する。全般に亜金属音を発する。	346
347		-311.88	347.10	△△△																							下層との境界は約30°で密着している。347.10~351.85m:安山岩 (角礫質)。	347
348				▽▽▽	明緑灰																						角礫化の弱い中粒輝石安山岩。赤色化していないものの角礫の境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。割れ目は少なく、長柱状コアが連続する。	348
349				▽▽▽	安山岩 (角礫質)																						349.20mに25°の割れ目があり、面は新鮮で明灰色軟質鉱物が少量付着する。	349
350				▽▽▽	青灰																							350
351				▽▽▽																							351	
352		-316.63	351.85	△△△	凝灰角礫岩	暗青灰																				下層との境界は約40°で密着している。351.85~354.70m:凝灰角礫岩。弱く褐色化したシルト~細粒砂サイズの基質中にφ1~5cm、最大約10cmの角礫を含む。撾分40~60%。礫種は暗色の細粒~中粒輝石安山岩が主体で、赤褐色や黒色多孔質安山岩も点在する。全般に亜金属音を発する。割れ目は少なく、あってもほぼ水平で、面は新鮮である。	352	
353				△△△	明緑灰																						353	
354		-319.48	354.70	△△△	暗赤褐																						354	
355				▽▽▽	暗青灰																					下層との境界は約30°で密着している。354.70~359.05m:安山岩 (角礫質)。354.70~359.05mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。赤色化は弱く、角礫は暗色を呈するものの境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。	355	
356				▽▽▽																							356	
357				▽▽▽	安山岩 (角礫質)																						357	
358				▽▽▽	赤灰																						358	
359		-323.83	359.05	▽▽▽	青黒																					359.05~362.45mは自破砕状の細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。全般に亜金属音を発するが、大きな角礫のなかには金属音を発するものがある。359.10mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、幅約2mmはフィルム状に剥がし易い。	359	
360				▽▽▽	黒褐																						360	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の19) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1		
361				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	青黒																				361
362				▽▽▽▽▽		黒褐																				362
363		-327.23	362.45	△△△△△		赤褐																				363
364		-328.43	363.65	△△△△△		オリーフ灰																				364
365				△△△△△																						365
366				△△△△△																						366
367				△△△△△																						367
368				△△△△△																						368
369				△△△△△		オリーフ灰																				369
370				△△△△△			Bb																			370
371				△△△△△																						371
372				△△△△△		凝灰角礫岩																				372
373				△△△△△																						373
374				△△△△△																						374
375				△△△△△																						375
376				△△△△△																						376
377				△△△△△																						377
378				△△△△△																						378
379				△△△△△																						379
380				△△△△△																						380

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の21) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	長柱状	砂片状	柱状		
401				▽▽▽▽▽																					401	
402				▽▽▽▽▽																					402	
403				▽▽▽▽▽																					403	
404				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)																				404	
405				▽▽▽▽▽																				404.65mに50°の割れ目があり、面はほぼ新鮮だが水平に近い条線が認められ、平滑になっている。	405	
406				▽▽▽▽▽		オリブ褐																			406	
407				▽▽▽▽▽																					407	
408			-372.88	408.10	▽▽▽▽▽																				408	
409			-373.93	409.15	▽▽▽▽▽																			下層との境界は漸移的で密着している。 409.15~425.10m: 凝灰角礫岩。 赤色化したシルト~細粒砂サイズの基質中にφ1~5cm、最大約12cmの角礫を含む。礫分30~50%。 礫種は細粒~中粒砕石安山岩で、暗色・緻密で境界が明瞭なもの、やや多孔質で境界が不明瞭なものとが混在する。 所々に幅20~50cmの角礫化が弱い部分を挟む。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫は金属音を発する。 割れ目は少なく長柱状~柱状コアが連続する。 410.90mに40°の割れ目があり、面はやや明灰色化して不明瞭な条線が認められるが付着物はない。	409	
410				△△△△△			Bb																		410	
411				△△△△△																					411	
412				△△△△△		暗赤褐																			412	
413				△△△△△																					413	
414				△△△△△																					414	
415				△△△△△	凝灰角礫岩																			415.00~420.00mは所々に60~80°の高角度の割れ目があり、面はやや明灰色化しているが付着物はほとんどない。	415	
416				△△△△△																					416	
417				△△△△△																					417	
418				△△△△△																					418	
419				△△△△△																					419	
420				△△△△△																				419.75mに70°の割れ目があり、面は明灰色化して部分的にフィルム状の白色鉱物が付着する。	420	

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の24) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ										※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱長	砂片	柱状	柱状	柱状	柱状	柱状		
461				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰 暗赤褐																				459.50~462.55m: 安山岩 (角礫質)。角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。やや赤色化しているが、角礫は概ね暗色で、境界が明瞭なものや不明瞭なものが混在する。また、縁辺沿いの幅2~4mmが黒色化した角礫も点在する。全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 461.30~461.50mは40~60°の割れ目が交差し、岩片状コアとなる。面は黒褐色化し、青緑色軟質鉱物が少量付着する。 461.75mは50~70°の割れ目が交差し、岩片状コアとなる。面は暗赤褐色化し、光沢があり、青緑色軟質鉱物が少量付着する。下層との境界は漸移的で密着している。	461		
462		-427.33	462.55	▽▽▽▽▽	凝灰角礫岩	暗青灰 褐																				461.50~461.75mは40~60°の割れ目が交差し、岩片状コアとなる。面は暗赤褐色化し、光沢があり、青緑色軟質鉱物が少量付着する。下層との境界は漸移的で密着している。 462.55~464.70m: 凝灰角礫岩。細粒砂サイズの基質中にφ1~3cm、最大約7cmの角礫を含む。硬分50~70%。 硬種は細粒~中粒輝石安山岩で、暗青灰色~黄褐色と様々な色調を呈し、境界は概ね明瞭である。全般に亜金属音であるが、φ4~7cmの暗色・緻密な角礫は金属音を発する。	462		
463				△△△△△	凝灰角礫岩	暗青灰 褐																				462.55~464.70m: 凝灰角礫岩。細粒砂サイズの基質中にφ1~3cm、最大約7cmの角礫を含む。硬分50~70%。 硬種は細粒~中粒輝石安山岩で、暗青灰色~黄褐色と様々な色調を呈し、境界は概ね明瞭である。全般に亜金属音であるが、φ4~7cmの暗色・緻密な角礫は金属音を発する。	463		
464		-429.48	464.70	△△△△△	凝灰角礫岩	暗青灰 褐																				464.70~468.25mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫はφ3~5cmで暗色のものとφ1~3cmで褐灰色のものが混在する。また、暗色の角礫は縁辺沿いの幅2~4mmが黒色化したものが卓越する。全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 464.70~476.00mは黄褐色の角礫が混入する。割れ目は少なく、概ね20°以下である。	464		
465				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				464.70~476.00mは黄褐色の角礫が混入する。割れ目は少なく、概ね20°以下である。	465		
466				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				464.70~476.00mは黄褐色の角礫が混入する。割れ目は少なく、概ね20°以下である。	466		
467				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	褐灰																				468.25~470.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。全般に金属音を発する。割れ目は30~50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。468.80mに40°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、条線が認められる。	467		
468		-433.03	468.25	▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																			468.25~470.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。全般に金属音を発する。割れ目は30~50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。468.80mに40°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、条線が認められる。	468		
469				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				470.00~472.90mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界が明瞭なものや黒色・やや多孔質で境界が不明瞭なものが混在する。全般に亜金属音であるが、角礫の中には金属音を発するものがある。	469		
470		-434.78	470.00	▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				470.00~472.90mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界が明瞭なものや黒色・やや多孔質で境界が不明瞭なものが混在する。全般に亜金属音であるが、角礫の中には金属音を発するものがある。	470		
471				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	褐																				472.90~475.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。全般に金属音を発する。割れ目は30~50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。473.45~473.80mは鈍した高角度の割れ目があり、一部が岩片状となる。面は黒褐色化して光沢があり、暗緑褐色シルトが付着する。	471		
472				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	褐																				472.90~475.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。全般に金属音を発する。割れ目は30~50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。473.45~473.80mは鈍した高角度の割れ目があり、一部が岩片状となる。面は黒褐色化して光沢があり、暗緑褐色シルトが付着する。	472		
473		-437.68	472.90	▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				475.00~478.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質でコア肌は粗く、境界は不明瞭。	473		
474				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				475.00~478.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質でコア肌は粗く、境界は不明瞭。	474		
475		-439.78	475.00	▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				475.00~478.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質でコア肌は粗く、境界は不明瞭。	475		
476				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰																				475.00~478.75mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質でコア肌は粗く、境界は不明瞭。	476		
477				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	褐																				478.45mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化して暗緑褐色シルトが付着する。	477		
478				▽▽▽▽▽	安山岩 (角礫質)	褐																				478.45mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化して暗緑褐色シルトが付着する。	478		
479		-443.53	478.75	▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																			478.75~482.95m: 安山岩 (均質)。細粒~中粒輝石安山岩。全般に亜金属音を発する。割れ目は黒色化して光沢のあるものが卓越する。479.20mに85°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、20~30°の不明瞭な条線が認められる。面に沿ってフレック状に割離し易く、暗緑褐色シルトが少量付着する。	479		
480				▽▽▽▽▽	安山岩 (均質)	暗青灰																				479.20mに85°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、20~30°の不明瞭な条線が認められる。面に沿ってフレック状に割離し易く、暗緑褐色シルトが少量付着する。	480		

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフがつかささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の25) G L = 35.22m L = 1253.0m

標 尺 (m)	月 日	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	岩 級 区 分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記 事	標 尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1		
														土 細 岩 短 柱 長 砂 片 柱 状 状 状 状 状 状 状												
481				V	安山岩 (均質)		Ba																	480.00~481.40mは潜在割れ目が網目状に発達する。固着割れ目にはハンマーの軽打で分離するものもあり、面は黒褐色化して光沢がある。	481	
482				V																					482	
483		-447.73	482.95	V																				482.35mに25°の割れ目があり、面は黒褐色化して高角度の条線が認められ、褐色シルトが付着している。下層との境界は漸移的に密着している。	483	
484				V																				482.95~537.05m: 安山岩(角礫質)。482.95~486.30mは角礫化の弱い細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色、やや多孔質で境界は不明瞭なものが卓越する。全般に亜金属音を発する。	484	
485				V	暗青灰																			482.95~514.80mは角礫は暗色、やや多孔質で斜長石斑晶が目立ち、境界はやや不明瞭なものが卓越する。所々φ1~2cmの角礫が卓越する部分を挟む。全般に亜金属音であるが、φ5cm以上の緻密角礫は金属音を発する。	485	
486				V																				割れ目は少なく概ね20°以下で面は新鮮である。	486	
487				V																				484.20~484.80mは20~60°の割れ目が発達する。面は黒褐色化しているが付着物は少ない。	487	
488				V																				484.85~485.15mは安山岩(均質)の角礫。	488	
489				V																				486.30~491.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~輝石安山岩。全般に金属音を発する。	489	
490				V																				割れ目は20~50°が卓越し、面は黒褐色化し光沢がある。	490	
491		-455.78	491.00	V	安山岩 (角礫質)		Bb																	488.15mに80°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、幅1mmのオリープ褐色シルトを挟む。	491	
492				V																				489.10~489.90mは固着割れ目が網目状に発達する。	492	
493				V																				489.30mに75°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、褐色シルトが付着する。	493	
494				V																				491.00~497.15mは角礫化のやや進んだ中粒輝石安山岩。角礫は暗色で斜長石斑晶が目立ち、境界が明瞭なものと同不明瞭なものとの混在する。所々にφ1~2cmの角礫が卓越する部分を挟む。全般に亜金属音を発する。	494	
495				V																				割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。	495	
496				V																				494.90mに80°の割れ目があり、面は黒褐色化してやや光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、黄灰色軟質鉱物がわずかに付着する。	496	
497				V																				495.45~495.65mは緻密な角礫が密集し金属音を発する。	497	
498				V																				497.15~499.70mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。φ10~30cmの緻密な角礫が卓越する。全般には亜金属音であるが、角礫は金属音を発するものが多い。	498	
499				V																				割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。	499	
500				V																				499.70mに30°の割れ目があり、下面に沿った虫食い状空洞に黄灰色鉱物が晶出している。	500	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフにつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の26) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状	記事	標尺 (m)						
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I				状	状	状	状	状	状
														土細岩短柱長 砂片片柱柱									5, 4, 3, 2, 1					
501				V		暗青灰													499. 70~504. 80mは角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。 角礫はやや多孔質で境界が不明瞭なものと、緻密で境界が明確なものとの混在する。所々の1~2cmの角礫が卓越し、凝灰角礫岩となる。 全般に亜金属音であるが、緻密な角礫は金属音を発する。 割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。 501. 60mに80°の割れ目があり、岩片状コアとなる。面は黒褐色化し、黄褐色シルトが付着する。	501								
502				V		褐														502								
503				V																503								
504				V																504								
505		-469. 58	504. 80	V		暗青灰													504. 80~506. 85mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒~中粒輝石安山岩。 全般に金属音を発する。 20~60°の割れ目が発達し、面は黒褐色化して光沢がある。	505								
506				V															505. 90mに75°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、暗緑褐色シルトが少量付着する。	506								
507		-471. 63	506. 85	V															506. 85~533. 95mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。	507								
508				V																508								
509				V		暗青灰														509								
510				V	安山岩 (角礫質)		Bb													510								
511				V		褐														511								
512				V																512								
513				V		褐														513								
514				V																514								
515		-479. 58	514. 80	V		暗青灰													514. 80~531. 10mはやや多孔質な角礫が減少し、緻密な角礫が卓越するようになり、境界が明確なものとの不明瞭なものとの混在する。 515. 20~515. 95mは角礫間に葉理をもつ暗灰色~灰色シルトが断片的・不規則に挟まれる。また、角礫は縁辺沿い幅2~4mmが暗褐色化したものが点在する。	515								
516				V																516								
517				V		褐灰													516. 50~516. 80mは安山岩(均質)の角礫だが、境界は不明瞭。	517								
518				V																518								
519				V																519								
520				V																520								

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状(全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状(長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の27) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ										※コアの形状					※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土	細	岩	短	柱	長	砂	片		
521																												521	
522																												522	
523																												523	
524																												524	
525																												525	
526																												526	
527																												527	
528																												528	
529																												529	
530																												530	
531																												531	
532																												532	
533																												533	
534																												534	
535																												535	
536																												536	
537																												537	
538																												538	
539																												539	
540																												540	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の32) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	長砂片	柱状	柱状		
621																								620.35~620.55mは40~50°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は明灰色化しているが付着物はほとんどない。	621	
622																								621.00~621.20mは70°の平行割れ目により、岩片状となる。面は暗褐色化し、白色鉱物がわずかに点在する。	622	
623																									623	
624																									624	
625																									625	
626							Bb																		626	
627						青黒																			627	
628																								627.60~628.80mは70~85°と45~60°の割れ目が交差し、短柱状~半柱状コアが主体となる。45~60°の面は明灰色化しているが、70~85°の面は縦ね新鮮で、いずれの面も付着物はほとんどない。	628	
629																									629	
630					安山岩 (角礫質)																			629.60~630.00mは80°と30~50°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は明灰色化しているが付着物はほとんどない。	630	
631																								-595.78 631.00 -596.38 631.60 -596.78 632.00	631	
632							Cb																	631.00~631.85mはφ1~3cmの角礫が主体となり、同質だが赤褐~紫灰色を呈する角礫が混じる。	632	
633																								631.85~643.80mは角礫化がやや進んだ中粒~粗粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明確。全般に亜金属音であるが、一部の大きな角礫は金属音を発する。 631.85mに80°の割れ目があり、幅1~2mmの褐色粘土を挟む。面は平滑で、不明瞭な条線が認められる。割れ目沿いは脆弱で、割れ目面と平行に剥離しやすい。周辺は割れ目が発達して細片状となり、黄褐色~褐色シルトが付着している。	633	
634						暗青灰	Bb																	634.50~635.30mは角礫化は弱い40°前後の割れ目が発達し、岩片状となる。面は部分的に暗褐色に変色しているが付着物はない。	634	
635																								-600.08 635.30	635	
636							Cb																	635.40mに75°の褐色割れ目があり、黄褐色~褐色シルトが少量付着している。周辺は角礫間が脆弱化し細片状となる。	636	
637																								-601.18 636.40	637	
638						暗オリ ーフ	Bb																	636.20mに70°の割れ目があり、黄褐色~褐色シルトが少量付着している。周辺は角礫間が脆弱化し細片状となる。 636.50~636.70mは20~50°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は暗褐色化しているが付着物はほとんどない。	638	
639																								637.50mに80°の割れ目があり、幅1mmの黄褐色~褐色鉱物片混じりシルトが付着している。面は平滑で暗褐色化しているが、条線は不明瞭。周辺は割れ目が発達して岩片状となる。 637.70~638.25mは20~60°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は暗褐色化しているが付着物はほとんどない。	639	
640																									640	

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断断面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の33) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ											※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	砂片状	柱状	5	4	3	2	1		
641					安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																						640. 10~642. 95mは角礫化がやや進んでいるが、割れ目は少ない。 641. 20~641. 60mは70°の割れ目に沿って岩片状となる。面は暗褐色化しているが、付着物はほとんどない。	641
642																														642
643						暗オリ ープ																								643
644		-608. 58	643. 80																										下層との境界は漸移的で密着している。 643. 80~645. 50m: 安山岩 (均質)。 中粒輝石安山岩。金属音を発する。 20~60°の割れ目が発達し、短柱状~岩片状コア主体となる。 面は黒褐色化しており、一部に白色鉱物が付着する。 644. 80~645. 30mは30~60°の割れ目が交差し岩片状となる。 面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	644
645		-610. 28	645. 50		安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																						下層との境界は漸移的で密着している。 645. 50~660. 90m: 安山岩 (角礫質)。 角礫化のやや進んだ細粒~中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。所々に幅5~20cmの角礫化がより進んだ部分を挟む。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 646. 55mに55°の割れ目があり、周辺は細片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はわずかである。 647. 25~647. 55mは40~60°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	645
646																														646
647																														647
648																														648
649						暗青灰																								649
650																													649. 70mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 649. 95mに60°の割れ目があり、褐色シルトが少量付着する。面は黒褐色化し、不明瞭な条線が認められる。周辺は岩片状となる。 650. 00~656. 30mは割れ目が少なく、柱状~長柱状コアが連続する。	650
651																														651
652						暗オリ ープ灰																							651. 60mに60°の割れ目があり、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物は少ない。 652. 20~653. 70mは角礫間を充填する白色鉱物が点在する。	652
653					安山岩 (角礫質)		Bb																							653
654																														654
655																														655
656		-620. 78	656. 00																										656. 30~656. 90mは80°の割れ目により、岩片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。部分的に条線が認められる。 656. 90~657. 90mは60~80°と30~50°の割れ目が交差し、岩片状~細片状コア主体となる。 657. 90~658. 50mは角礫化がごく弱く均質に近い。概ね金属音を発するが、割れ目も発達する。 658. 60~658. 90mは70°の割れ目により、細片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。	656
657						暗青灰																								657
658																														658
659						オリ ープ褐																								659
660																													659. 70~660. 30mは角礫化が進み1~3cmの角礫が卓越する。	660

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の35) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2	1		
681		-645.08	680.30	V	安山岩 (均質)	暗灰	Ba																		680.30~681.75m: 安山岩 (角礫質)。角礫化のごく弱い中粒輝石安山岩で、角礫は暗色・緻密で、全般に金金属音を発する。 681.45mに60°の割れ目があり、岩片状となるが、面は新鮮。	681
682		-646.53	681.75	V	安山岩 (角礫質)	暗灰 ? オリブ褐	Bb																		下層との境界は漸移的で密着している。 681.75~755.80m: 安山岩 (均質)。中粒の輝石安山岩で、全般に金属音を発する。割れ目は30~50°のものが卓越するが、所々に60~85°のものがある。面は概ね黒褐色化しているが付着物はほとんどない。 682.00mに65°の割れ目があり、面はオリブ褐色~赤褐色を呈する。付着物はないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 682.15~682.95mは50~65°の潜在割れ目が認められる。 683.10mは55°の割れ目が交差し、岩片状となる。面はいずれも黒褐色化し、暗褐色シルトが少量付着する。	682
683				V																					684.60mに50°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。 685.15mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。	683
684				V																					686.40mに55°の割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。	684
685				V																					687.90mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mmの暗褐色シルトを挟む。	685
686				V																					689.55mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化し白色軟質鉱物が少量付着する。	686
687				V																					690.15mに85°のわん曲した割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。 690.50mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが付着物はない。	687
688				V																					691.00~698.00mはφ1~4cmの黒色細粒安山岩捕獲岩片が少量点在する。 691.20~693.00mは30~60°の潜在割れ目が認められる。	688
689				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba																		692.10mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mm未満の褐色シルトと白色軟質鉱物が付着する。	689
690				V																					693.00mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し暗灰色シルトが少量付着する。	690
691				V																					693.60~694.20mは50~70°の割れ目が交差し、岩片状コアとなる。面は黒褐色化しているが付着物はほとんどない。	691
692				V																					695.30mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	692
693				V																					696.45mに55°の平行割れ目があり、面は黒褐色化し黒色~褐色シルトが少量付着する。	693
694				V																					697.85mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	694
695				V																					698.55~698.90mは網目状の潜在割れ目が認められる。	695
696				V																					699.65mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し、付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	696
697				V																						697
698				V																						698
699				V																						699
700				V																						700

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の36)				G L = 35. 22m				L = 1253. 0m				標 尺 (m)					
標 尺 (m)	月 日	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	岩 級 区 分	※ 硬 さ						※ 断 裂 面 の 性 状	記 事		
								F	E	D	C		B			A	VI
701				V												700. 85mに80° の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	701
702				V													702
703				V													703
704				V													704
705				V													705
706				V													706
707				V													707
708				V													708
709				V												709. 15mに70° で間隔約1cmの平行割れ目があり、面はやや黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。	709
710				V	安山岩 (均質)	暗青灰	Ba										710
711				V													711
712				V													712
713				V													713
714				V													714
715				V													715
716				V													716
717				V												716. 60mに35° の割れ目があり、面は黒色化して高角度の条線が認められるが、付着物はない。 717. 15mに85° の割れ目があり、岩片状コアとなる。面は黒色化しており、褐色シルトが少量付着する。	717
718				V													718
719				V													719
720				V													720

※ 硬 さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※ コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱 状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※ 断 裂 面 の 性 状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0. 5mm以上について記載)。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13. 6 (63の39) G L = 35. 22m L = 1253. 0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状					※断裂面の性状					記事	標尺 (m)	
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱状	長柱状	砂片状			柱状
761				△△△																						761
762				△△△																						762
763				△△△																					763. 30~763. 60mは細粒の安山岩（均質）角礫。	763
764				△△△		暗褐																			764. 50mに55°の割れ目があり、面は部分的に暗緑色化し白色鉱物が少量付着する。	764
765				△△△																						765
766				△△△																					765. 90~766. 70mは約30°の平行割れ目が発達する。	766
767				△△△																						767
768				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																			768
769				△△△																						769
770				△△△																						770
771				△△△																					771. 00~774. 85mは様々な色調の安山岩角礫に黄灰色デザート角礫が混じる。	771
772				△△△		黄褐																				772
773				△△△																						773
774				△△△																						774
775				△△△																					774. 90~775. 35mは20°の暗褐色細粒凝灰岩の葉理が認められる。	775
776				△△△																						776
777				△△△																						777
778				△△△																						778
779				△△△																					778. 50~779. 65mは角礫が少なく、約30°の暗褐色細粒凝灰岩の葉理が認められる。 779. 90mに45°の割れ目があり、面は概ね新鮮で約60°の条線が認められるが付着物はない。 780. 25mに50°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められる。付着物はほとんどないが面に沿ってフィルム状に剥離し易い。	779
780				△△△																						780

※硬さ

- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷つかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷つかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- I：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- II：柱状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- III：短柱状（全周を有し10cm未満）
- IV：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- V：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- VI：土砂状

※断裂面の性状

- 1. 割目が新鮮。
- 2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
- 4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
- 5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の40) G L = 35.22m L = 1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	地質 名	色調	岩級 区分	※硬さ						※コアの形状						※断裂面の性状					記事	標尺 (m)		
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	土細岩	短柱	長柱	砂片	柱			柱	状
781				△△△																						781		
782				△△△																						782		
783				△△△																						783		
784				△△△																						784		
785				△△△																						785		
786				△△△		暗褐																				786		
787				△△△		〃																			786.45mに60°の割れ目があり、面は暗赤褐色化して高角度の条線が認められるが、付着物はない。	787		
788				△△△																						788		
789				△△△																						789		
790				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰	Bb																			790		
791				△△△																						791		
792				△△△		〃																				792		
793				△△△																						793		
794				△△△		黄褐																				794		
795				△△△																						795		
796				△△△																						796		
797				△△△																						797		
798				△△△																					797.50mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、ほぼ水平の不明瞭な条線が認められるが、付着物はない。	798		
799				△△△																					798.55mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められる。付着物はほとんどないが面に沿ってフィルム状に剥離し弱い。	799		
800				△△△																					799.45mに65°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、高角度の条線が認められるが、付着物はほとんどない。	800		

※硬さ

- A : ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B : 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C : 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D : 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E : 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F : 手で割れ、ナイフがつきささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I : 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II : 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III : 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV : 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V : 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI : 土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

K-13.6 (63の44)		G L = 35.22m		L = 1253.0m																					
標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ						※コアの形状					※断断面の性状					記事	標尺 (m)
								F	E	D	C	B	A	VI	V	IV	III	II	I	5	4	3	2		
861				△△△		暗褐																		861.20~861.50mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。	861
862				△△△		〃																			862
863				△△△		〃																			863
864				△△△	凝灰角礫岩	暗青灰																			864
865				△△△		〃																			865
866				△△△		黄褐																		865.35~865.65mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。	866
867				△△△		〃																			867
868		-832.58	867.80	▽▽▽	安山岩 (角礫質)	暗青灰	Bb																	867.80~869.75m: 安山岩 (角礫質)。角礫化のごく弱い細粒輝石安山岩。40~50°の割れ目が卓越するが面は概ね新鮮。	868
869		-834.53	869.75	▽▽▽	〃	褐灰																			869
870				△△△		〃																			869.75~926.75m: 凝灰角礫岩。869.75~874.75mは暗褐色のシルト~細粒砂サイズ基質中にφ0.5~2cm、最大約6cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。
871				△△△		暗褐																			871
872				△△△		〃																			872
873				△△△		暗青灰																			873
874				△△△	凝灰角礫岩	〃																		873.80~873.95mは暗赤色化した細粒輝石安山岩の角礫。	874
875				△△△		〃																		874.75~875.30mはφ2~5cmの角礫が密集する。	875
876				△△△		暗赤褐																		875.20mにはほぼ水平な割れ目があり、幅3~4mmの剥離性のある黒色泥岩を挟む。	876
877		-841.48	876.70	△△△		〃																		876.70~880.70mは礫径・礫量ともに減少する。	877
878				△△△		〃																			878
879				△△△		〃																			879
880				△△△		オリブ灰																			880

※硬さ

- A: ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- B: 中打で割れ、ナイフで傷がつかない (金属音)。
- C: 中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難 (亜金属音)。
- D: 軽打で割れ、ナイフで傷がつく (亜金属音)。
- E: 軽打で割れ、ナイフでけずれる (だく音)。
- F: 手で割れ、ナイフが付きささる程度以下 (だく音)。

※コアの形状

- I: 長柱状 (30cm以上の円柱状コア)
- II: 柱状 (10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- III: 短柱状 (全周を有し10cm未満)
- IV: 岩片状 (全周のない4cm以上の岩片)
- V: 細片状 (長さ4cm未満の岩片)
- VI: 土砂状

※断断面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する (厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。